

平成 28 年度 事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

○ 概 要

わが国の経済は、総じて穏やかな景気回復基調が続き、幾分か明るい兆しが見えてきているようですが、その動きが地域経済にはまだまだ十分な浸透がないまま、少子高齢化の波は容赦なく急速に押し寄せてきています。このような状況の中、今後も社会活力の維持と経済成長力を確保し、地域を支えていく担い手としては、元気で豊かな経験と知識を持ったアクティブシニア＝高齢者の『知識・やる気・元気』を結集し、就業率を高めていくことが大変重要であり、高齢者への期待は一層大きくなっています。また、そのことが健康寿命の延伸と介護負担の軽減にも繋がると国は『一億総活躍プラン』を揚げ、高齢者の“生涯現役社会”の実現に向けた取組みを広く展開しています。

当センターもその期待に応えられるよう今年度も会員の拡大をはじめ、就業機会の拡充、さらにはサポート事業への積極的推進などに努めて参りました。

しかし、本市内の景気改善は未だ見通せず、足踏み状態が続く平成 28 年度の事業実績は、公共事業で 130,648 千円（対前年比 97.3%）、民間事業で 202,108 千円（対前年比 93.1%）、派遣事業では 10,342 千円（対前年比 111.9%）で、全体事業契約金額では 343,099 千円（対前年比 95.1%）で前年度と比べて 1 千 762 万円の減額という厳しい状況となっています。また、会員数では男性 278 名、女性 212 名の計 490 名（対前年比 94.8%）で、就業状況の受注件数では 1,315 件（対前年度比△69 件）、年間の就業延べ人員 65,107 人（対前年度比△3,207 人）となっており、何れも昨年度を下回る結果となっています。

今後更に、高年齢化社会が進み多様なニーズと厳しい就業環境が続くとみられ、会員の確保や事業の拡大などは益々難しくなりますが、まずは当センターの役職員や会員が一丸となって、積極的な『仲間探し』を行なうことが僅々の課題解決であります。また、今まで以上に地域との連携を図りながら、健全で地域に信頼されるセンターづくりを目指し、次年度に繋げて参ります。

以下、平成 28 年度に実施した主な内容を次のとおりご報告いたします。

1. 就業機会の確保・拡大をめざして

(1) 就業開拓

- ① 一般労働者派遣事業(シルバー派遣事業)の推進を積極的に展開した。

また、発注者の就業ニーズを常に把握することに努め、就業機会の拡大に繋げた。

- ② 就業開拓員 1 名を配置し、地域事情に詳しい会員などから情報を収集し、市内の各家庭や新たな事業所訪問などの就業開拓を行なった。
- ③ 女性向きの職域（福祉・家事援助サービス）の拡大や新分野の事業開拓などの PR に努めた。
- ④ 島内近隣センターとの連携・交流などを密にし、就業機会の流失防止と他センターにおいて受注実績のある業種など新たな就業機会の拡大に努めた。
- ⑤ 会員、役員、事務局が連携し、多方面に渡っての組織的な就業開拓と新規会員の確保・拡大に努めた。
- ⑥ 会員の清掃ボランティア活動などの社会参加を推進し、その活動を通じて、シルバー事業の取組み啓発や会員の拡大及び就業機会の拡大に努めた。
- ⑦ 自治体や各種団体等と連携を強める中、受注機会の拡大に努めた。

（2）会員拡大

- ① 各種媒体を活用し「知識・やる気・元気」のシルバー事業を広く PR し、また会員からの情報提供により入会の促進を図った。
- ② 年々増加傾向にある屋外草刈りや除草作業などの需要に応えるため、団塊の世代を中心とした入会啓発を促し会員の拡大に繋げた。
- ③ 入会に際しては、個別面談を行ない、会員の能力、資質、ニーズに沿った就業機会の提供に努めた。

2. 組織強化をめざして

（1）組織の強化

- ① 「自主・自立・共働・共助」の理念を尊重し、会員の意識を高め自主的な運営参画を推進し、地域社会の要請に対応できる安心と信頼の事業運営に努め、地域に根ざしたセンター作りを目指した。
- ② センターの自立と適正な運営、経営の安定化に向け、就業機会の拡大と併せ、地域ごとの作業効率を高めるための設備投資や環境整備に努めた。
- ③ 支部活動の運営や事務経費の見直しなどの運営費の効率化を進め、財政基盤の安定に努めた。
- ④ 公益法人として、適正に対応できる知識や情報を収集し、地域から信

頼され、貢献できるセンターの構築に向けて、役員研修や理事会を中心に運営体制の充実を図った。

- ⑤ 兵シ協が推進するシルバー事業の県下統一事務処理集中化に加わり、事務処理の効率化に努めた。
- ⑥ 他市のシルバー人材センターとの連携を深め、相互の情報交換を行ない、全シ協・兵シ協等が実施する各種研修会などにも積極的に参加し、事業の発展に努めた。

(2) 組織の魅力アップ

- ① シルバーだより「あわじ」をはじめ淡路市の広報誌やホームページなどを積極的に活用し、シルバー事業の魅力についての広報活動の充実を図った。
- ② 清掃奉仕活動などのボランティア活動への参加を積極的に行ない、地域社会への貢献を図り、シルバー事業への魅力アップに繋がった。
- ③ 会員相互及び事務局との連帯意識の高揚を図るため、会員研修旅行の実施や慶弔見舞金等の給付などを行なった。
- ④ 地域班（職群班）を基軸に、会員一人ひとりが就業に必要なマナーと技術力を高め合いレベルアップ化を目指した。

3. 安全・適正な就業をめざして

(1) 安全な就業

- ① 安全はシルバー事業の基盤であり、全てに優先することを、全会員に周知徹底し、「事故ゼロ」を目指す活動を行なった。
- ② 「安全・適正就業基準」を周知徹底するため、総会時に安全就業研修や講習会などを実施し、会員の安全意識の高揚を図った。
- ③ 危険・有害な作業を内容とする仕事や、高年齢者に相応しくないと判断される仕事などは引き受けず、より適切な仕事の受注に努めた。
- ④ 安全就業を確保するため、年数回「安全パトロール」の実施や、会員の就業先現場への抜き打ち巡回などを積極的に行ない、就業環境などの安全確認に努めた。
- ⑤ 会員の就業途上の交通事故の防止と交通ルールの遵守を図るため、「交通安全講習会」を開催し、事故撲滅の推進に努めた。

(2) 適正な就業

- ① シルバー事業の適正就業の仕組みについて事業主などに正しく理解してもらいながら、長時間就業者の是正に取り組み、更なる就業体制の適正

化に努めた。

- ② 会員の高年齢化が進む中、健康診断の受診を促し、日々の健康管理等も含め、会員一人ひとりの安全就業に対する意識の高揚を図った。

※平成 28 年度事故発生状況

事故の種類	発生日	事故（作業）内容	傷害・損害等内容
傷害事故 5 件	28. 7.7	剪定作業中の脚立からの落下事故	肩を強打し骨折
	28. 8.23	草刈作業中のコンクリート破片飛散による損傷事故	目の傷害
	28. 11.11	草刈作業中、他の会員への負傷事故	足の裂傷
	28. 12.7.	清掃作業中の無理な姿勢による腰捻挫事故	坐骨神経痛
	29. 3. 9	除草作業中、ドアの止め金具が足指に当たる負傷事故	左足親指骨折
賠償事故 3 件	28. 5.18	草刈作業中の小石飛散による破損事故	ソーラーパネルの破損
	28. 9.9	〃	車両フロントガラスの破損
	28.11. 1	〃	通過中のバスの窓ガラス破損